

## 社説

## Democratic fallacy

民主主義・民主党の**ごびゅう**誤謬

Nature Vol. 462(389)/26 November 2009

公聴会方式で予算配分を決めようという日本の取り組みは、日本の社会や科学のためにはよいことかもしれない。しかし、今のやり方はそうではない。

日本政府は、今、少なくとも日本国内では革命的と思われる試みを進めている。官僚機構の外にいる人々が国家予算の決定過程を監視し、さらに過激なことに、その過程に国民が参加しているのである。

11月11日から27日まで開かれた公聴会(事業仕分け)では、民間の専門家と国民の代表からなる行政刷新会議ワーキンググループが、約220件の主要政府事業について官僚を厳しく追及し、各事業に対する自らの価値評価をもとに予算要求の妥当性を判定した。結果は、多い少ないはあるものの予算縮減、ないしは全額カットとなった。来年度予算については、例年、12月末までに財務省原案の提出と政府案の閣議決定が行われるが、今回の事業仕分け結果がどの程度の影響を及ぼすのか、今のところ不透明である。

日本の科学技術政策の最高決定機関である総合科学技術会議は、各事業を科学的に再評価する責任を負っており、ワーキンググループが進めている「社会的評価」と、対立的あるいは補完的な位置付けとなっている。ワーキンググループを監督する行政刷新会議の議員の1人が財務大臣であることから、ほとんどの論者は、事業仕分け結果には重大な影響力があると確信している(*Nature* 2009年11月19日号258ページ参照)。

事業仕分けは、数十件の科学事業と最も基本的な科学研究補助金制度の一部に対して行われているが、このことに日本の科学コミュニティの相当部分が苛立っている。しかし、理にかなった運営がなされれば、事業仕分けは前向きな展開となりうる。日本では、透明性と国民参加が不十分であり、それが確実に前進するはずだからである。これまでの日本の予算決定は、しばしば関係機関と官僚との間の取引によって進められてきたが、透明性と国民参加は、科学的必要性に基づいた予算決定へとつながっていく。

ただし、財務省としては、事業仕分け結果をどの程度重視するかを決める前に、事業仕分けというプロセスに潜むいくつかの重大な欠点を考慮すべきである。

例えば、総事業費が数千万ドル級の長期プロジェクト、特に10年以上前から継続している大型放射光施設SPring-8のような事業の場合、事業仕分けを担当するワーキンググループの19人のメンバーに科学者は数人しかおらず、この分野の専門家は1人もいない。たった1人の官僚が、ワーキンググループに対して事業内容を1時間で説明し、その事業の重要性について理解を得ることが望めるだろうか。SPring-8については30～50%という大幅な予算縮減と判定されたが、これを最終判断と見なしてよいのだろうか。このような事業仕分けで、予算縮減がもたらす影響を適切に評価できるのだろうか。

日本のスーパーコンピューター開発事業は、事業仕分け結果のとおりに進めば、おそらく中止ということになる。この事業を正当化するために使われた「世界最速」という国家主義的なうたい文句にワーキンググループが疑問を呈したのは正しかったかもしれない。しかし、この事業については、再検討、規模縮小、あるいは再交渉と判断する余地があった。事業規模を縮小しても、科学に十分貢献でき、事業存続を正当化できたかもしれないのである。ただ、総合科学技術会議でさえ、一般に科学的バックグラウンドのない官僚、そして産業界の代表者が大部分を占めていることを考えると、その再交渉では、事業仕分けよりももっと多くの科学者による情報提供が必要になるだろう。

全体的にみれば、これら科学事業の社会的価値をどう理解すべきなのか、ワーキンググループによって有益なフィードバックがもたらされたといえる。事業仕分けの対象になったような大型公共投資の場合、この視点は極めて重要であり、科学者が見落としがちな点である。ただし、それに引き続いて対話を行うことが必要である。一般国民に科学者の仕事の進め方を評価させるのなら、科学者にも自らを弁護する機会を与えなければならない。

ある研究者がいうように、今回の出来事は「悪い夢」であり、来年1月に目を覚ましたら、政府が事業仕分け

結果を十分に検討したうえで予算案を決定していた、ということになるかもしれない。また、これから数年で、事業仕分けも落ち着くべきところに落ち着き、研究者も自らの研究の正当性を説明するためにこの課題を受け入

れ克服できるようになるのかもしれない。しかし、今のままでは、事業仕分け結果が予算決定過程における最終判断となり、今後数十年にわたって壊滅的な影響を及ぼす可能性をはらんでいる。(菊川要 訳) ■